

## 2 . 富士宮市の概況及び上位計画の位置づけ

---

2 - 1 . 富士宮市の概況

2 - 2 . 上位計画の位置づけ



## 2 - 1 . 富士宮市の概況

### 1) 位置・地勢

本市は静岡県の東部に位置し、東は富士山の南斜面、西に芝川町、南は富士市、北は山梨県に接している。古くより富士山本宮浅間大社の門前町として栄え、浅間大社を中心に市街地が形成されている。

また、市内には国道 139 号、国道 469 号、JR 身延線が通り、県内外を結ぶ重要なルートとなっている。

気候は温暖で、富士山麓の豊富な地下水・森林や緑あふれる朝霧高原など豊かな自然に恵まれ、田貫湖や白糸の滝など観光資源も多い。



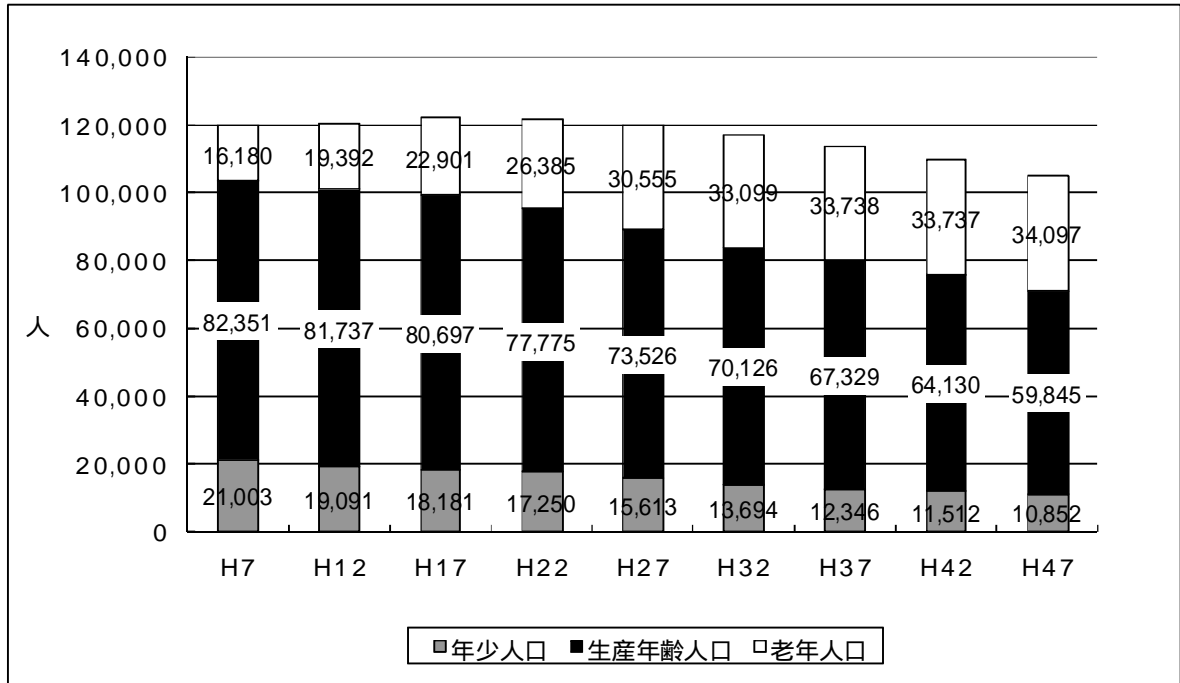
図 2-1 富士宮市の位置



図 2-2 富士宮市の市域

## 2) 人口の推移・高齢化率等の状況

本市の人口の推移は図 2-3 のとおりである。国立社会保障人口問題研究所の将来推計によると、本市の総人口は平成 22 年以降、減少すると予測されている。年齢構成別では、年少人口及び生産年齢人口は減少傾向である。一方、老年人口は増加傾向となっており、少子高齢化が進展していくものと考えられる。

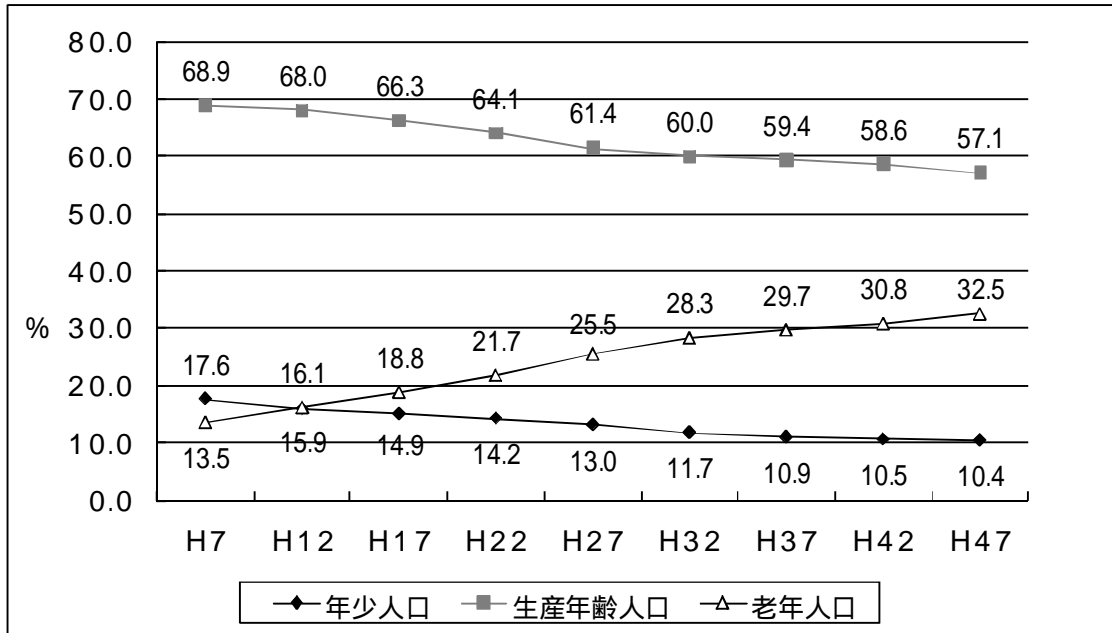


出典：国勢調査、国立社会保障人口問題研究所資料

図 2-3 市行政人口推移

また、年齢別の人口割合を示したものが図2-4である。老年人口の割合は増え続け、平成22年は、総人口における5人に1人が高齢者であるが、さらに平成47年には3人に1人が高齢者になると予測されている。

なお、平成20年度における行政区別の高齢化率の分布は図2-5のとおりであり、市郊外部における高齢化率が比較的高くなっている。



出典：国勢調査、国立社会保障人口問題研究所資料

図2-4 市年齢別人口割合の推移

表2-1 市行政人口推移

年度	H7	H12	H17	H22	H27	H32	H37	H42	H47
総人口(人)	119,534	120,220	121,779	121,410	119,694	116,919	113,413	109,379	104,794
年少人口(人)	21,003	19,091	18,181	17,250	15,613	13,694	12,346	11,512	10,852
(割合,%)	17.6	15.9	14.9	14.2	13.0	11.7	10.9	10.5	10.4
生産年齢人口(人)	82,351	81,737	80,697	77,775	73,526	70,126	67,329	64,130	59,845
(割合,%)	68.9	68.0	66.3	64.1	61.4	60.0	59.4	58.6	57.1
老年人口(人)	16,180	19,392	22,901	26,385	30,555	33,099	33,738	33,737	34,097
(割合,%)	13.5	16.1	18.8	21.7	25.5	28.3	29.7	30.8	32.5

出典：国勢調査、国立社会保障人口問題研究所資料









### 3) 公共施設等の分布状況

本市における公共施設等の分布状況を図2-6に示す。また、公共施設の名称は以下の表2-2のとおりである。多くの施設が市街地に集積しており、特に医療・保健・福祉施設及び病院・医院、商業施設は市北部にはほとんど分布していない状況である。一方、市役所、出張所、教育・スポーツ施設は市全域に点在している。

表 2-2 公共施設一覧

No.	名称	No.	名称
<b>市役所（本庁・支所・連絡所）</b>		<b>高等学校</b>	
1	富士宮市役所	1	県立富士宮北高等学校
2	富士宮市役所 北山出張所	2	県立富士宮西高等学校
3	富士宮市役所 上野出張所	3	県立富士宮東高等学校
4	富士宮市役所 上井出出張所	4	県立富岳館高等学校
5	富士宮市役所 白糸出張所	5	静岡理工科大学星陵高等学校
<b>医療・保健・福祉</b>		<b>観 光</b>	
1	富士宮市立病院	1	白糸の滝
2	保健センター	2	陣馬の滝
3	救急医療センター	3	田貫湖
4	総合福祉会館	4	小田貫湿原
5	長生園	5	狩宿の下馬桜
6	あすなる園	6	富士山本宮浅間大社
<b>教育・スポーツ</b>		7	奇石博物館
1	市民文化会館	8	富士花鳥園
2	中央図書館	9	ドライブインもちや遊園地
3	西富士図書館	10	富士山表富士宮口五合目
4	中央図書館	11	「道の駅」朝露高原
5	富丘公民館	12	まかいの牧場
6	南部公民館	13	杵塚養鱒場
7	富士根北公民館	14	静岡県水産試験場富士養鱒場
8	富士根南公民館	15	スポーツビレッジ村山ジャンボ
9	西公民館	16	富士ミルクランド
10	麓山の家	17	環境省田貫湖ふれあい自然塾
11	勤労青少年ホーム	18	富士山天母の湯
12	男女共同参画センター	19	富嶽温泉 花の湯
13	青少年相談センター		
14	富士宮スポーツ公園		
15	山宮スポーツ公園		
16	学校給食センター		

出典：富士宮市 HP



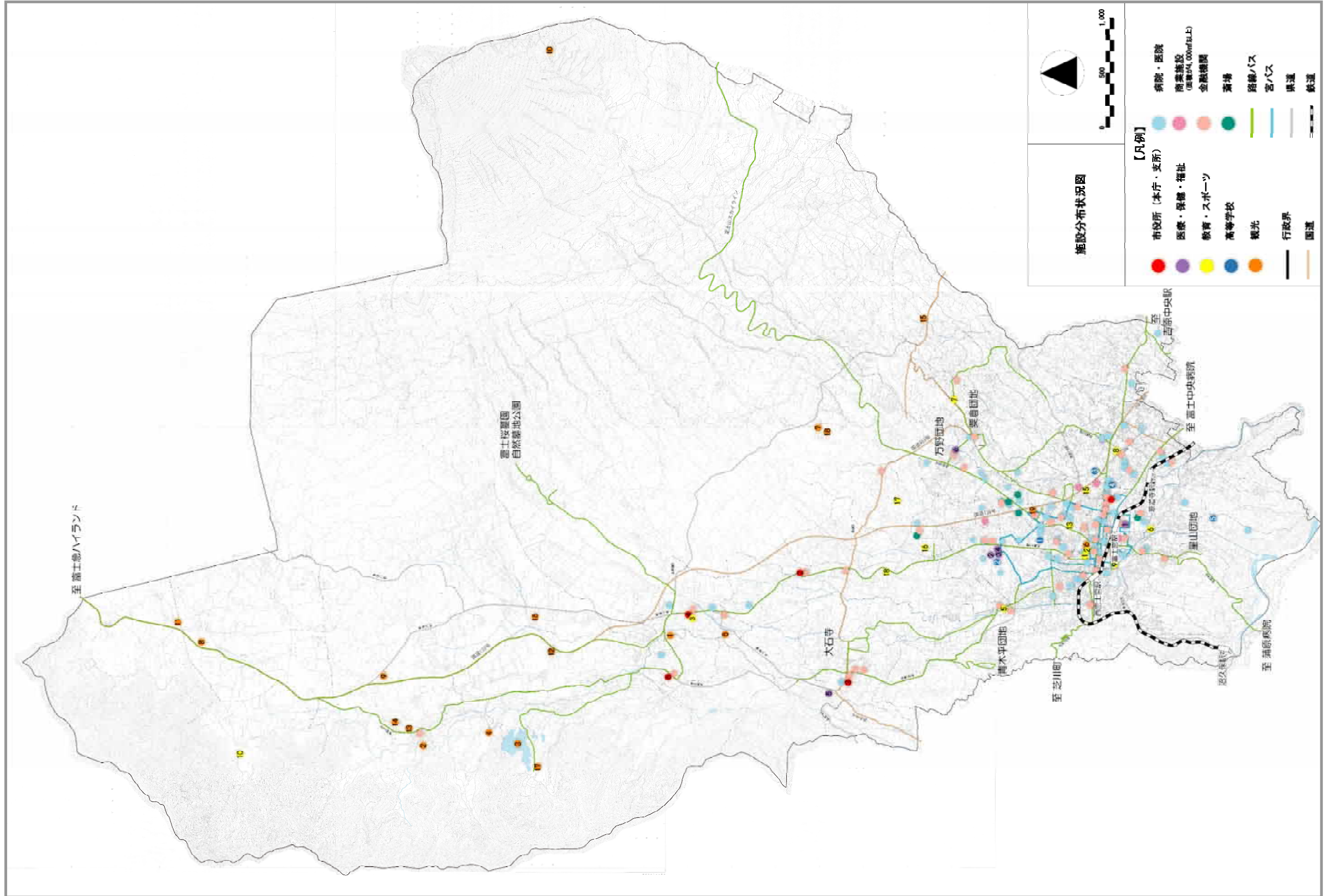
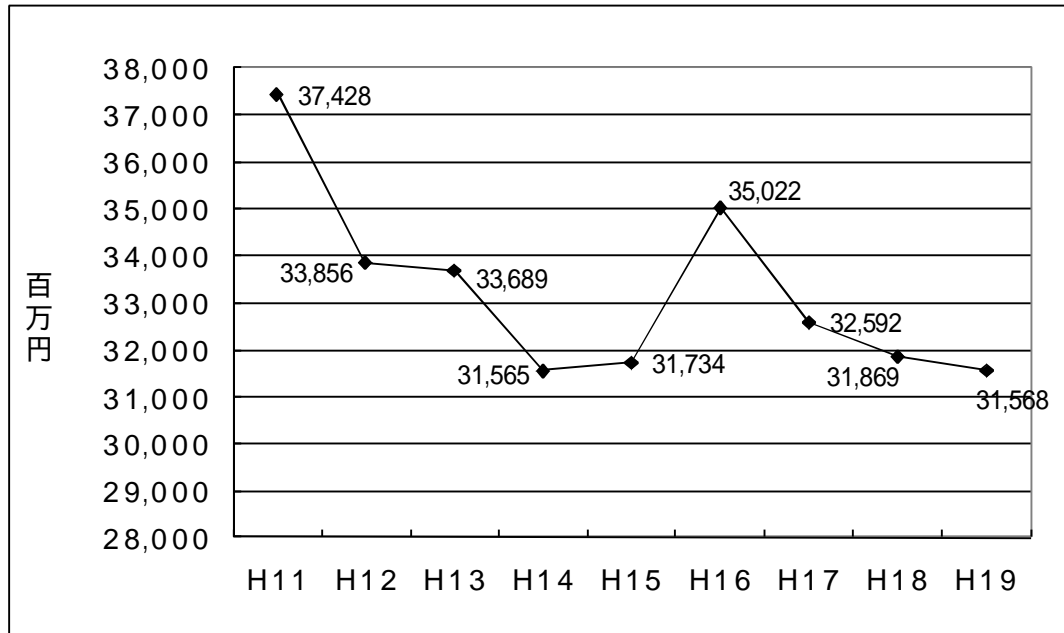


図 2-6 公共施設分布図



## 4) 一般会計歳入額の推移

本市における一般会計歳入決算額の推移は図2-7のとおりである。年度により多少のばらつきはあるが、平成11年度以降、減少傾向にある。平成18年度に財政健全化計画を策定(平成20年度に第2次改定)し、行財政改革・財政健全化に努めている。



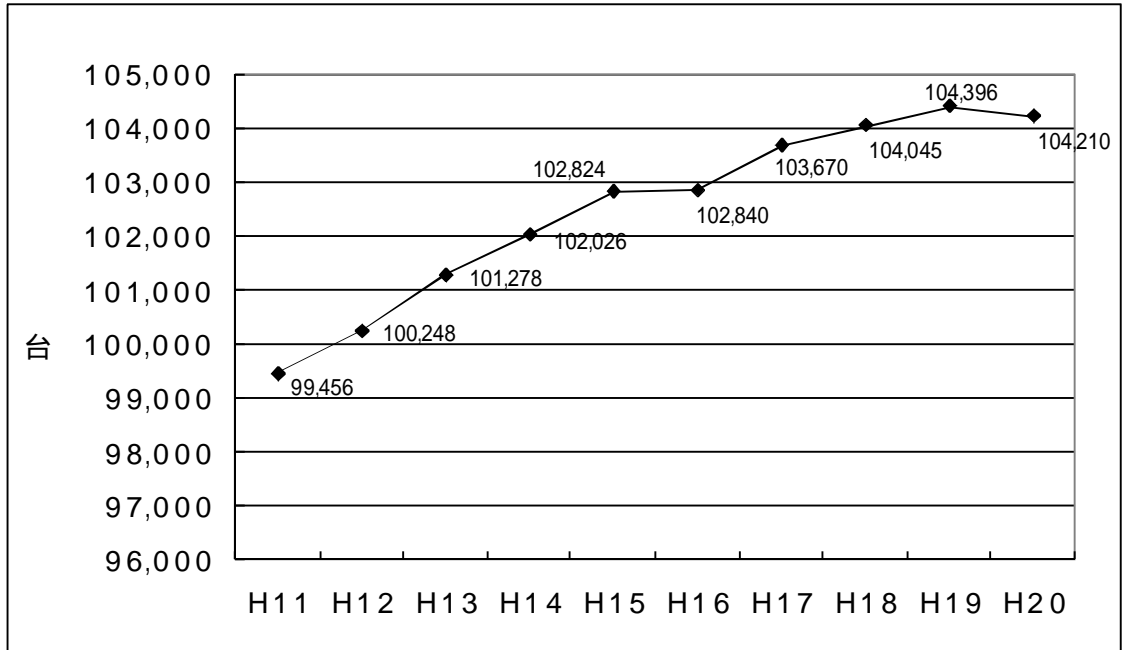
出典：富士宮市の統計

図2-7 市一般会計歳入決算額推移

## 5) 自家用車の保有台数

本市の自動車保有台数の推移を図2-8に示す。平成11年度の99,456台から平成19年度の104,396台へと一貫して増加傾向(平成11年度から平成19年度にかけて約5%増)にあり、日常の移動における自動車への依存が増大していたことが伺える。

しかし、人口推移の分析からわかるように、今後は少子高齢化が進展しそれに伴う自動車の保有台数の減少が予測されるとともに、平成20年度に減少の傾向が表れたことから、今後は自動車から公共交通への転換が進む可能性もあると考えられる。



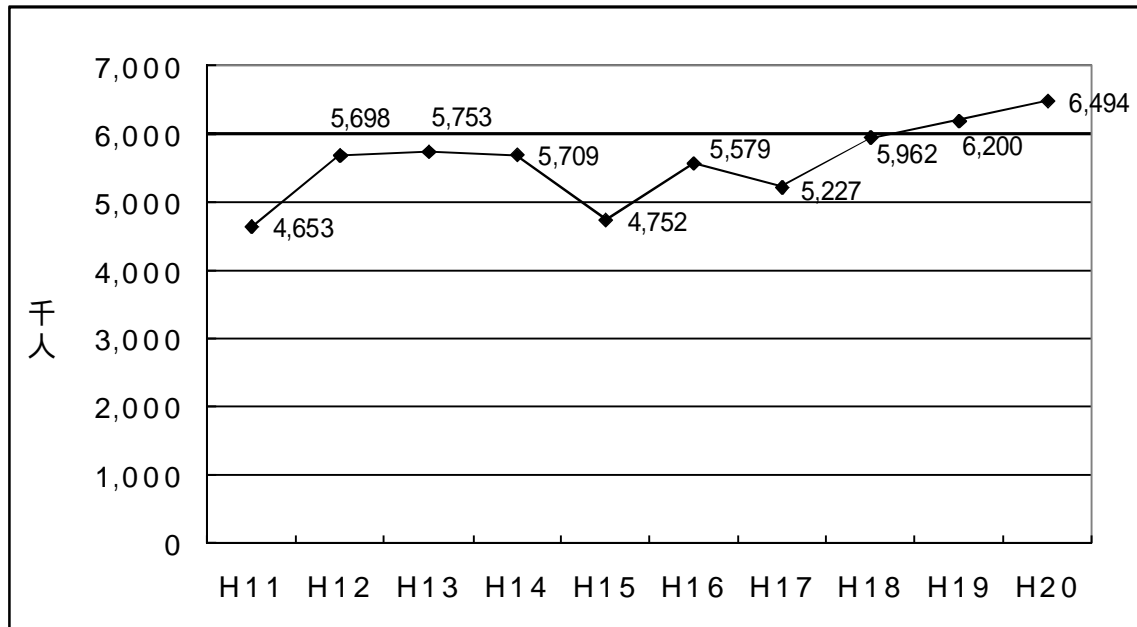
出典：富士宮市の統計

図2-8 自動車保有台数推移

## 6) 観光客の流入状況

観光客の推移は図 2-9 のとおりで、近年は増加傾向にあり、平成 20 年度は過去 10 年で最大の入込客数となっている。

富士山の世界文化遺産指定への機運も高まり、「観光庁アクションプラン」に基づき、政府の観光立国の早期実現に向けた取り組みも強化されていることから、富士山という日本を代表する観光資源を抱える本市への観光客の増加が見込まれる。



出典：富士宮市の統計

図 2-9 観光客入込客数推移

#### 観光庁アクションプラン

観光庁が平成 21 年 1 月に策定。観光立国の実現に向けた取り組みが着実かつ効果的に進められるよう、観光庁としての当面の目標や具体的な施策とそのスケジュールが示されている。

「訪日外国人旅行者数を 2010 年までに 1000 万人、2020 年までに 2000 万人」、「日本人海外旅行者数を 2010 年までに 2000 万人」、「日本人の国内観光旅行による 1 人当たりの宿泊数を 2010 年度までに 4 泊」、「観光産業の国際競争力の強化」などの項目について具体的な施策、取組みを定めている。

## 2 - 2 . 上位計画の位置づけ

「富士宮市地域公共交通総合連携計画」を策定するに当たって考慮すべき公共交通に関する上位計画の位置づけを整理する。

### 1) 第4次富士宮市総合計画（平成18年度～平成27年度）

「第4次富士宮市総合計画」は、日本一元気な自立した都市を創造するための目的志向型の戦略計画として、まちづくりの基本方向を示すものである。平成27年度を目標年次とし、平成17年度に策定された。

基本目標：富士山の自然に抱かれた やさしく元気なまち

#### 【基本目標】

1. 富士山の自然と産業が調和した元気なまちづくり
2. やさしい心で進める健康と福祉のまちづくり
3. 健全な心と体をはぐくみ人が輝くまちづくり
4. 快適でにぎわいのあるまちづくり
5. コミュニティ豊かな安全・安心まちづくり
6. 市民協働と自立したまちづくり



「快適でにぎわいとふれあいのあるまちづくり」

#### 交通体系が整った便利なまち

#### 【基本方針】

広域交通の円滑化を図るため、第二東名自動車道、国道469号（富士南麓道路）等の建設促進を国・県に要請するとともに、総合的な交通体系の確立を目指し、都市計画道路の整備を進める。また、新幹線新富士駅と在来線との接続について関係機関に要請するなど、公共交通機関の整備に努める。

#### 1. 道路交通体系の確立

国土幹線・広域幹線道路の整備  
都市計画道路の整備

#### 2. 公共交通機関の整備

富士地域の広域的な振興・発展を図るため、新幹線新富士駅と在来線との接続について、DMV等の調査・研究を進めるとともに、関係機関に要請する。  
市民のニーズに合わせ、バス路線の維持等について検討する。

DMV：デュアル・モード・ビークル（Dual Mode Vehicle）の略。道路とレールの両方を自在に行き来し走行できる新しい乗り物。



## 2) 富士宮市都市計画マスタープラン（平成 14 年度～平成 32 年度）

「富士宮市都市計画マスタープラン」は、住民の意向を反映させて、都市づくりの将来像を確立し、長期的視野に立った土地利用、都市施設などの配置及び整備その他都市計画の基本的な方針を示している。平成 32 年度を目標年度とし、平成 14 年度に策定された。

基本理念：富士山の恵みを大切に“職・住・遊・学”が共存する創造都市

**道路・交通体系計画****【基本的な考え方】**

幹線道路網の形成と併せて、人と環境にやさしい都市交通の実現を目指して、効率的な自動車利用の実現や徒歩・自転車・公共交通への転換・活用を促進するとともに、公共交通の充実や交通拠点の機能強化、安全で快適な歩行者空間の整備を進める。

**【基本方針】**

## 人と環境にやさしい都市交通の実現

## 交通需要マネジメントへの取り組み

効率的な自動車利用や公共交通などへの転換を促進する交通需要マネジメント施策の導入を検討し、道路交通渋滞の緩和や環境負荷の少ない都市づくりを進める。

## 公共交通の充実

各交通結節点における、JR 身延線とバスとの相互の連絡性を高め、各交通機関が連結した一体的なネットワーク機能の強化を図る。また、市民ニーズに応えるバスの運行や鉄道利用の促進を図り、誰もが安心して利用できる利便性の高い公共交通として充実する。

**【整備方針】**

## 公共交通の利用促進

通勤時における富士市などへの自動車交通量を低減させ、国道 139 号などの道路渋滞の緩和や環境負荷の軽減を図るため、パーク・アンド・ライドやパーク・アンド・バスライド、キス・アンド・ライドなどを推進し、公共交通への利用転換を図る。併せて、駅周辺の駐車場整備などを進める。

## 市民ニーズに応えるバスの運行

誰もが利用しやすく、利便性の高いバス交通の実現や交通需要マネジメントを推進するため、公共交通機関協力のもと、車両サイズのミニ化、低床化、新規開発拠点への路線網の設定、フリー乗降制などを推進するとともに、高齢社会に対応したバス運行への取り組みを進める。また、バスの走行条件の改善を図るため、バスターミナル、優先レーン、バスベイの設置の拡充を進める。

## 3) 岳南都市圏総合都市交通計画（平成 18 年度～平成 37 年度）

岳南都市圏（富士市、富士宮市、芝川町）における交通量実態調査では、「岳南都市圏総合都市交通計画協議会」を組織し、平成 16 年から平成 18 年の 3 ヶ年にわたり検討を行い、平成 18 年度に報告書をまとめた。協議会では、将来交通計画として都市圏レベルの広域的な交通計画を示している。また、将来交通計画は長期と短・中期の 2 時点での計画を行う。

**都市交通体系の基本方針**

- 「都市活力の向上」に資する都市交通体系の構築
- 「安全・快適な暮らし」を支える都市交通体系の構築
- 「環境負荷の小さな都市づくり」を目指す都市交通体系の構築

**【長期交通計画】（目標年次：概ね 20 年後）**

財政等の制約を考慮しない条件下において必要性のある施策をすべて取り込んだ計画であり、最終的な整備目標として位置づけした長期の交通体系として計画する。

**【短・中期交通計画】（目標年次：概ね 5～10 年後）**

道路交通網計画・公共交通計画・交通需要管理計画等をパッケージ化した「都市交通戦略」の提案、及び財政や整備量等の制約条件や施策の重要度を踏まえた「中期道路網計画」の策定を行う。

**長期計画****公共交通施策の展開方針**

都市交通体系の基本方針のもと公共交通施策の展開方針を、次のとおり示しており、地域公共交通総合連携計画においては、展開方針を受けての検討が必要となる。

**公共交通施策の展開方針****都市圏の公共交通軸の形成**

都市圏内を運行する公共交通について、機能分担を図りながら、公共交通軸の形成を目指す。

**ニーズに応じた公共交通の運行**

各地域の実情に応じて運行の効率化を図るとともに、地域の生活交通を担う地域内公共交通の運行を目指す。

**公共交通の利便性向上**

住民ニーズに対応するため、公共交通の利便性向上に関する施策の導入を目指す。

**交通結節点の機能強化**

さまざまな交通が集まる駅及びバスターミナルなどの交通結節点について、駅前広場や歩行空間のバリアフリー化、駐車場・駐輪場の整備を行い、交通結節点の整備に係わる機能を強化することによって、乗り継ぎの改善や快適な公共交通利用を促進することを目指す。

### 短・中期計画

#### 公共交通活性化プラン

短・中期交通計画における岳南都市圏の公共交通活性化プランは、次の3点を柱として「都市圏の軸となる公共交通の利便性向上及び利用促進」を図ることを目標としている。

#### 軸となる公共交通の利便性向上及び利用促進

##### 生活の足の確保（高齢者の公共交通利便性向上）

高齢者など交通弱者の生活の足を確保するため、住民の生活と密着した移動（主要な公共施設や医療施設への移動など）に対応できる公共交通の運行。

##### 自動車通勤からの転換促進（通勤時の公共交通利便性向上）

通勤時間帯において自動車から公共交通への転換を促すため、通勤時間帯の移動特性に対応した公共交通の運行、公共交通での通勤の利便性を向上できる施策を実施する。

##### 使いやすい公共交通の実現（利用者ニーズへの対応）

公共交通利用者のニーズに対応した使いやすい公共交通とするとともに、広域的な交流を促進できる施策を実施する。

#### 都心部交通戦略（富士宮市プラン）

都心部交通戦略（富士宮市プラン）は、次の3点を柱とした「地域資源を活かした安全・安心で快適な移動の実現」を目標としている。

#### 地域資源を活かした安全・安心で快適な移動の実現

##### まちなかのネットワーク向上

富士宮市中心市街地及びその周辺地域内での快適な移動を実現するため、南北市街地の分断要素となっている JR 身延線と道路との立体化と併せて、まちなかでの歩行者ネットワークを向上するとともに、公共施設の連携を強化できる交通施策を実施する。

##### 安全で安心して移動できる交通施設の整備

富士宮市都心部は、商業や業務施設が集中する地区であり、さまざまな人が集まる場所であることから、誰もが利用しやすい交通施設や公共交通の運行など、安全で安心できる交通施設整備の実施。

##### 地域資源を活かせる公共交通の運行と情報提供

富士宮市中心市街地周辺には、浅間大社や神田川など観光資源が豊富にあるとともに、“富士宮やきそば”を利用したまちおこしを都市交通面から支援するため、観光まちづくりと連携した交通施策の実施。